松浦武四郎篇１

北海道の名付け親

平成 30 年（２０１８）は、伊能忠敬が亡くなって２００年。また、松浦武四郎が生まれて２００年。今回は、松浦武四郎をご紹介しましょう。

節目を迎えようとしているもののひとつに「北海道」があります。北海道は、かつて「蝦夷地（えぞち）」と呼ばれていましたが、明治2年（１８６９）８月15日に明治政府によって「北海道」と命名され、１５０年を迎えようとしています。

この「北海道の名付け親」といわれているのが、松浦武四郎です。武四郎は、江戸時代の終わりから明治時代にかけて活躍した探検家で、６回にわたって蝦夷地の探査を行いました。生涯にわたり全国を歩き続けた旅行家、作家、学者、出版者でもあり、冒険心と多芸多才ぶりを発揮しました。

武四郎は、文化 15 年（１８１８）、伊勢国一志郡須川村（現在の三重県松阪市小野江町）で生まれました。生家は「伊勢街道」沿いにあり、南は伊勢神宮へ、北は四日市の日永で江戸と京都とを結ぶ「東海道」へとつながり、家の前を多くのお伊勢参りの旅人が行き交いました。

武四郎が 13 歳の頃にあった「文政のおかげ参り」は、年間４００~５００万人もの人々が参宮したといわれ、武四郎は街道を歩く多くの旅人に刺激を受け、「旅」を志すようになっていったのでしょう。16 歳で突然、家を出て江戸への一人旅、17 歳からは全国各地を巡りました。

なお、この生家は「市指定史跡　松浦武四郎誕生地」として整備され、見学することができます。

松浦武四郎の生家と伊勢街道